

長門の話題

Topics



仙崎地方卸売市場で初競り

この市場から長門の発展を

1月5日(土)早朝、昨年7月に完成した仙崎地方卸売市場で初競り式が行われました。初競り式で、山口県漁協長門統括支店の津室喜久運営委員長が、「関係者が一体となって、この市場から長門市の発展につながる取り組みをしていきたい」とあいさつをしました。

競りが始まると、この日水揚げされたマグロやぶり、イカやタコなど約3トンの魚介類が次々と競り落とされていきました。

仙崎市場の昨年の水揚げ量は、天候不良による出漁日数の激減などの影響により前年を2,000トン以上も下回る約6,100トンでした。



▲競りが始まるとセリ人の声が響く



▲大西市長と中尾下関市長がくじらシンボルマークをアピール

下関市・長門市両市長会談

両市で活性化を目指す

1月16日(水)、ラポールゆや

で下関市・長門市両市長会談が行われました。初めに、水道災害等相互応援体制マニュアル作成について経過報告があり、内容が確認されました。

その後、①山陰自動車道「長門・下関間」の整備促進について、②くじらシンボルマークの活用について協議が行

われました。

山陰自動車道については、小月地区からの接続と事業化を国に求めていくこと、くじらシンボルマークの利用促進のため、愛称募集を行うこと、くじらシンボルマークを用いたヘッドマーク付き車両が運行できるよう進めていくことが確認されました。



▲連携して救助した濱村さん（左）と山根さん（右）

人命救助者に対する感謝状を贈呈

協力して命を救った

1月11日（金）、長門警察署で人命救助者に対する感謝状の贈呈式が行われました。

今回感謝状を受け取ったのは、油谷後畑の濱村弘志さんと油谷川尻の山根正次さんです。2人は、1月1日の9時30分ごろに川尻漁港内において防波堤から海中に転落した

71歳の男性を適切かつ迅速に救助しました。第一発見者の濱村さんは「怪我もなく無事でほんとうに良かった」と話しました。また、救助した山根さんは「感謝状をいただきとても名誉です。これからも救助活動に協力していきたい」と話しました。



▲報告に耳を傾ける大西市長と村田副市長

▼情報を的確に整理、分析する



長門市防災図上訓練

いざというときに備える

1月17日（木）、長門市防災図上訓練がルネッサながとアリーナで行われ、市職員や防災関係機関など9団体105人が参加しました。

今回の訓練は、午前6時30分ごろに渋木断層・菊川断層連鎖動を震源とするマグニチュード7.0の地震が発生し、長門市で震度6弱から5

強を観測した想定で行われました。訓練で参加者は、次々と提示される災害状況に対して、すばやい意思決定で対応したり、関係機関と連携して解決をしたり、真剣な表情で訓練に取り組んでいました。

また、下関市と救助応援を電話で要請する訓練も行われました。

スポーツ少年団関係者・団体を表彰

長年の功績を讃える

12月26日（水）、長門市物産観光センターで日本スポーツ少年団創設50周年記念事業功労者・優秀団体等表彰式が行われました。

この表彰は、日本スポーツ少年団創設50周年という節目を迎えることを記念し、日本スポーツ少年団が功績をたた

えて表彰するものです。

表彰式では、長門市スポーツ少年団の山下浩本部長が、スポーツ少年団の育成に15年以上継続して活動している認定育成員や認定員、指導者ら49人と団体結成以来20年以上継続している18の団体に表彰状を手渡しました。



社明作文コンテストで受賞

受賞して、びっくり！

1月17日(木)、第62回社会を明るくする運動作文コンテストで受賞した生徒・児童が大西市長を訪れ、報告を行いました。

訪れたのは、全国保護司連盟理事長賞を受賞した明倫小学校6年の丹後竜貴くん、山口保護観察所長賞を受賞した



▲左から宮木さん、丹後くん、小野さん

深川中学校1年の小野颯季さん、山口県保護司会連合会会長賞を受賞した日置小学校6年の宮木優衣さんの3人です。

3人は、「受賞できると思わなかったのでびっくりしましたが、とてもうれしかったです」と話しました。



▲実習生を代表してあいさつする上田祐太さん

▼2月27日までの49日間の航海に出発



市有地有効活用でメガソーラー

行財政改革と発電を進める

12月20日(木)、長門市役所で太陽光発電事業実施協定締結式が行われました。

市が保有する「滝ノ下スポーツ公園用地」と「日置公共残土処分場用地」の2カ所を有効活用し、大規模太陽光発電事業(メガソーラー事業)を行うこととなり、事業主体

2社と長門市とがそれぞれ事業実施協定を締結しました。「滝ノ下スポーツ公園用地」

には株式会社エネルギーソリューション・アンド・サービスにより、「日置公共残土処分場用地」にはヤマネ鉄工建設株式会社により、太陽光発電のパネルが設置されます。



平成24年度海友丸遠洋航海出航式

海で成長し、帰ってくる

1月10日(木)、山口県立水産高校・大津緑洋高校水産校舎で平成24年度海友丸遠洋航海出航式が行われました。今回の遠洋航海実習は、大津緑洋高校の生徒が初めて参加するものとなりました。

実習生代表の上田祐太さんは、「長い船上での生活は不安でいっぱいですが、教官の

指導に従い、仲間と助け合っで、山口水産高校の歴史と伝統を受け継いで新しい歴史を作れるようにがんばります」と決意を述べました。

このあと、仙崎港に移動、家族や同級生が大勢見守るなか、42人の実習生を乗せて実習船海友丸はホノルルに向けて出航しました。

「古市ひろば」に壁画が設置

テーマは「夢」と「元気」

1月7日(月)、日置古市にあるふれあいショップ「古市ひろば」で日置中学校の生徒が制作した壁画の除幕式が行われました。

この壁画は、日置中学校が地域への恩返しをしようと取り組んでいる地域貢献活動の一環として制作されました。

除幕式では、制作した生徒を代表して守田千咲さんが「地域の皆さんに夢や元気を与えたい」と述べました。

コンパネ4枚に描かれた壁画のテーマは、夢と元気。日置の町がもつと盛り上がってほしいと生徒が願い描かれました。

元旦に湯本住吉神社で初参拜

今年の賑わいを祈る

1月1日(火)、湯本温泉の住吉神社で、温泉旅館協同組合や市の関係者がその年の商売繁盛などを祈願する、恒例の新年初参拜が行われました。

大寧寺の岩田住職が商売繁盛を祈願、続いて全員で今年もたくさんのお客で賑わう街になるよう祈りました。



休日夜間診療センター建築工事安全祈願祭

工事の安全を祈願する

1月9日(水)、長門市休日夜間診療センター(仮称)の建築工事安全祈願祭が行われ、大西市長や長門医療圏地域医療再生計画推進協議会の関係者約30人が出席しました。

このセンターは、仙崎198番地1に建設され、休日夜間診療センターと、医療、保健、

福祉および介護等の各分野がネットワーク型に連携し、サービスを行う施設です。同時に地域医療連携支援センター(仮称)も整備するものです。

総事業費は約5億1千万円で、平成25年10月に供用を開始する予定です。



東日本大震災被災地への支援を続けよう!

東北地方太平洋沖地震に係る

被災者支援長門市市民会議から

主な支援活動の状況

■募金(12月31日現在)

◆日本赤十字社山口県支部
長門市地区(市福祉課)
20,979,805円

◆山口県共同募金会長門支
会(市社会福祉協議会)
5,237,381円

日本赤十字社、共同募金会とも、募金期間が、平成25年3月31日までとなっています。現地ではこれから寒い時期になり、支援が必要です。引き続き温かいご支援をお願いします

市民会議事務局
福祉課福祉係

Tel 23・1245

ルネッサながとで狂言教室

独特の動きに挑戦

1月12日(土)、ルネッサながとで狂言教室が開催されました。これは、人間国宝の野村万作氏らによる「万作・萬齋狂言公演」が行われるのに合わせ、ワークショップ形式で行われたもので、約80人が参加しました。

講師は高野和憲氏と月崎晴

夫氏で、参加者の中から12人が実際に舞台上がり直接指導を受けました。能との違いについて説明もあり、参加者は独特の動きや言い回しに挑戦していました。

参加者全員で大きな声で笑う場面もあり、全員が楽しめる教室となりました。



▲実際に舞台の上で演じてみる

第24回ふれあいスポーツ駅伝大会

大畑路を力強く走る

1月20日(日)、旧大畑小学校周辺で第24回深川地区ふれあいスポーツ駅伝大会が行われました。これは、地区民のふれあいと交流を深め、走ることを通して体を鍛え、健康づくりに関心を深めてもらうべく開催されています。

大会には、8チームが参加

8区間12・96キロを小学生から40歳以上の男女でチーム編成し競われました。

参加した選手は、冷え込む大畑路を力強く走りぬぎ、次の走者へたすきをつないでいました。また、親子でたすきリレーする場面も多く見られました。

▼スタートの瞬間



市内各地で「どんど焼き」

燃やして無病息災を祈る

1月13日(日)、大日比地区で一年の無病息災を祈るどんど焼きが行われました。

どんど焼きは、竹やシダを組み、中に正月飾りや書き初めなどを詰め込んで作られた高さ約10mのやぐらに火をつけ燃やします。やぐらが海側に倒れたら豊漁、山側に倒れたら豊作になると言い伝えら

れています。

この日はおよそ100人の住民が見守る中、年男女がたいまつで火をつけるとやぐらは勢いよく燃え上がり10分も経たないうちに海側に倒れました。

同日、油谷伊上地区でも、また15日には通地区でもどんど焼きが行われました。



▲大日比では10分たらずでやぐらが倒れた

▼同じ日に油谷伊上地区でもどんど焼きが行われた



長

門の

People

刺激しあえる仲間に出会える

いつもの場所

森福 千恵子 さん

2月9日(土)、市民から美術作品を募集した第19回長門市美術展の表彰式が開催されます。昨年市長賞を受賞した森福千恵子さんは、12回目の参加となった今回、2作品を制作しました。自宅にある工房には、新たな作品作りに向けて土を練る森福さんの姿があります。

あきらめていた陶芸

洋裁をしたり、廃材を使って家具を作ったりと、とにかく物を作ることが大好きでこれまでたくさんさんのものを制作してきました。やりたいと熱望していた陶芸は独学ではできないので他の作品を作ることによってその穴を埋めていたのかもしれない。

そんな矢先、新聞の折り込みに陶芸教室の広告を見つけ、念願を叶えました。

市美展は1年の総括

教室に入ってからこれまで12年続けて出品しているこの美術展は、1年間制作してきたことの総括。いろいろな先生の話を聞くことができたり、その場で指導していただいたり、その1年を反省し課題を見つけることができる。そしてそれをヒントに新たな作品のイメージが湧いてくる。森福さんにとって長門市美術展は、そんな場所です。

将来的には自宅で個展を

日常使いのお皿が好きで、



▲美術展に出品した2つの大皿

壺やオブジェではなく、普段使える物を作って、自宅を訪れた人に見てもらったり使ってもらったりしています。「新しい物に挑戦したい」と話す森福さん。これからは大きな板皿を制作して、これまでとは違った表現を披露します。

自分を表現できる

あきらめかけていた陶芸を10年以上も続けて来れたのは、家族や職場の仲間が理解し、協力してくれたおかげ。自分を表現することのできるこの陶芸。これからもみんなの気持ちに感謝しながら、見て使って喜んでくれる人を想い、ろくろを回し続けます。